

(案)

藤枝市観光交流基本計画

まちの宝と地域のかでつくる
観光交流都市・ふじえだ



【ふじえだの四季】

2021-2025



藤枝市
Fujieda City

ふじえだの花



桜（金比羅山・瀬戸川河川敷）



藤（蓮華寺池公園）



コスモス（殿）

ふじえだの産業・地場産品



お茶



地酒



朝ラーメン

ふじえだの自然



宇嶺の滝



白藤の滝



滝ノ谷不動峽



藤枝の大茶樹

ふじえだの歴史・文化



日本遺産（大旅籠柏屋）



日本遺産（田中城下屋敷）



サッカー（藤枝総合運動公園）

ふじえだの催事



藤枝大祭り



朝比奈大龍勢



藤枝花火大会

ふじえだの観光施設



瀬戸谷温泉ゆらく



おれっぷ大久保グラススキー場



おれっぷ大久保キャンプ場



蓮華寺池公園



玉露の里



陶芸センター

目 次

第1章 計画策定のねらい

1 策定の趣旨	2
2 計画の位置付け	2
3 計画期間	3
4 藤枝版ローカルSDGsとの連動	3

第2章 近年の観光動向

1 国における観光動向	6
2 県・中部地域における観光動向	6
3 本市の観光動向	7

第3章 本市が目指す観光

1 本市の地域資源	10
2 旅行者の行動・意識変化	11
3 本市の観光における優位性と課題	12
4 基本理念と施策体系	13
5 計画推進のための主体・役割	14
6 計画の推進体制	15
7 数値目標	15
8 新型コロナウイルス感染症の影響	16

(表紙写真)

上段 左：金比羅山の桜 中央：蓮華寺池公園の藤 右：藤枝花火大会
下段 左：つたのほそ道公園の紅葉 右：ルミスタ★ふじえだ

第4章 基本方針と基本施策

1 地域資源を活かした交流機会の創出	18
(1) 市民まつり等のイベント・文化・スポーツによる交流機会の創出	18
①市民まつり等のイベントによる交流	18
②歴史文化による交流	19
③日本遺産を活用した交流	20
④スポーツによる交流	21
(2) 地域資源の魅力に触れる交流機会の創出	22
①体験型観光の推進	22
②自然とふじえだ花回廊を活かした交流	23
③陶芸を活かした交流	24
④道の駅を活かした交流	25
(3) 産業と健康による交流機会の創出	26
①お茶を活かした交流	26
②食と産業による交流	27
③健康を活かした交流	28
2 多様性に配慮した受入環境の整備	29
(1) 来訪者受入態勢と施設の充実	29
①おもてなし基盤の充実	29
②交通手段の充実と活用	30
③観光施設の魅力向上	31
(2) 新しい生活様式への対応	32
①ICTを活用した観光の推進	32
②ワーケーションの推進	33
3 国内外誘客活動の推進	34
(1) 国内外プロモーションの実施	34
①国内プロモーションの実施	34
②国外プロモーションの実施	35
(2) 広域連携による誘客推進	37
①広域連携による旅行商品開発と情報発信	37



第1章 計画策定のねらい

1. 策定の趣旨

人口減少や少子高齢化、グローバル化、ICT化により社会構造の変化が進行する中、本市が将来に向け持続的な発展と活力に満ちた地域社会の実現を図っていく上で、観光が果たす役割の重要性はこれまで以上に高まっています。

本市は、藤をはじめ桜や紅葉、コスモスといった花や、びく石（石谷山）、瀬戸川や朝比奈川などに代表される豊かで美しい自然に恵まれています。

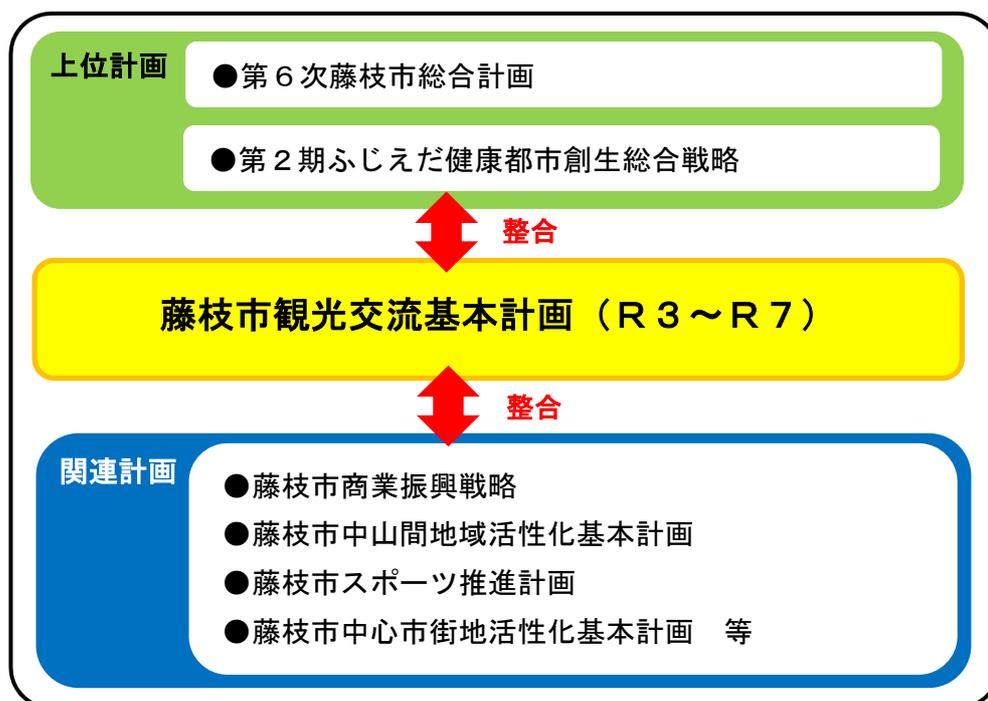
さらに、日本一の規模と質を誇る地踊りを披露する藤枝大祭り、全国的にも大変貴重な民俗文化財である朝比奈大龍勢、国内外にその名を知られる地酒や花火などの地場産業といった観光資源を豊富に有しています

本市は、これまで、地域住民が主体となった市民まつりや地域資源を活用した着地型観光に力を入れてきました。今後、東京オリンピック・パラリンピックといった世界的なイベント等を最大限に活かすとともに、オリンピック後や新型コロナウイルスとの共生や収束後を見据えた観光交流の一層の拡大を図ることにより、本市を訪れる人と地域の人とのつながりが生まれるまちを目指します。

このため、観光を巡る急速な環境の変化に迅速かつ的確に対応し、観光に関する施策を総合的に推進するために、本計画を策定します。

2. 計画の位置付け

本計画は、上位計画である「第6次藤枝市総合計画」及び「第2期ふじえだ健康都市創生総合戦略」に基づく観光交流に係る個別計画です。



I C T : Information and Communication Technology の略で、コンピューターを使って人と人、人とコンピューターが通信する応用技術のこと。

着地型観光 : 観光客の受け入れ先が、地元ならではのプログラムを提供する新しい観光の形態のこと。

3. 計画期間

計画期間は、令和3年度から令和7年度までの5年間とします。なお、社会情勢に大きな変化が生じた場合については、必要に応じて計画の見直しを行います。

R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
第6次藤枝市総合計画									
第2期ふじえだ健康都市創生総合戦略				見直し					
藤枝市観光交流基本計画				見直し	藤枝市観光交流基本計画【改訂版】				

4. 藤枝版ローカルSDGsとの連動

本計画の取り組みは「第2期ふじえだ健康都市総合創生戦略」における『藤枝版ローカルSDGs』の17のゴールと連動して推進します。



本計画と関連が深い
ローカルSDGs

8
力強い
地域産業と
多様な働き方
を生み出す

10
多文化共生の
まちをつくる

12
6Rを推進し、
廃棄物を
削減する

17
あらゆる
主体が協働・
協奏する
まちをつくる

SDGs : Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略で、国連の持続可能な開発のための国際目標のこと。17のグローバル目標と169のターゲットからなる。ローカルSDGsは、その実現に向けて、地方自治体として取り組むべき目標のこと。



第2章 近年の観光動向

1. 国における観光動向

国は「観光立国」を目指し、観光を成長戦略の柱とし、地方創生への切り札として、訪日外国人旅行者数を令和2年に4,000万人、令和30年に6,000万人とする目標を掲げ、近年大胆な取り組みを行ってきました。

結果として、令和元年には訪日外国人旅行客は3,188万人、その消費額も約5兆円となり、観光は地域経済に大きく貢献する産業となりました。

また、世界に目を向けると、この7年間で国際観光客数は40%増加し、14億人に達しており、世界的にも観光は成長分野の産業といえます。さらに、インド、フィリピン、インドネシアなどアジア各国の経済成長は著しく、今後の訪日外国人旅行者数増加の鍵を握っていると考えられます。

日本の観光の特徴としては、依然として日本人国内旅行者の割合が高く、その消費額は8割を占めますが、国内消費の低迷が続く中で、インバウンド客による観光交流が求められています。

2. 県・中部地域における観光動向

静岡県では、平成29年に全県を活動対象とした「静岡ツーリズムビューロー」（略称：TSJ）を県観光協会内に立ち上げ、ヨーロッパ・オセアニアを中心としたインバウンド客の誘致に取り組んでいます。令和元年に開催されたラグビーワールドカップでは、袋井市にあるエコバが会場の一つとして選定され、県内にもインバウンド客が大挙して押し寄せました。

また、平成25年に富士山がユネスコの世界遺産に登録されたことや、東京－大阪間のいわゆるゴールデンルート上に位置することもあり、静岡県はインバウンド客の観光目的地のひとつに選ばれています。

国内客にあっては、都心から1時間弱で到着できる地の利をアピールした観光客誘致を県観光協会や各自治体・観光協会が行っており、特に県東部・伊豆地域への首都圏からの来訪が盛んです。また、平成30年から令和2年にかけて静岡県観光協会等が実施した、全国向けの一大観光キャンペーンである「静岡デスティネーションキャンペーン」では、県内の地域資源の磨き上げによる新たな観光商品が開発され、平成31年4～6月期（キャンペーンのメイン期間）での観光交流客数は、キャンペーン前の同時期と比べ1割増しとなりました。キャンペーンにより新たに開発された観光商品をレガシーとして、今後も個人客・団体客向けに積極的にPRしていく予定です。

県中部地域では、平成29年度から藤枝市・静岡市・焼津市・島田市・牧之原市・川根本町・吉田町で構成する地域連携DMOが、地域資源を活用した観光に取り組んでいます。

インバウンド：外国人が訪れてくる旅行のこと。

世界遺産：1972年のユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」に基づき登録されるもの。

ゴールデンルート：外国人観光客が巡る、東京、箱根、富士山、名古屋、京都、大阪などを結ぶ観光周遊ルートのこと。

D M O：Destination Marketing Organization／Destination Management Organizationの略で、観光地域づくり法人のこと。

観光交流客数：観光施設やイベントへの来場者数と、旅館、ホテルの延べ宿泊者数を足したもの。

3. 本市の観光動向

本市の観光交流客数は右肩上がりでも推移してきましたが、平成25年度以降、年間250万人前後で推移しています。また、最近では平成27年度に複数の大型宿泊施設が中心市街地に立地したことにより、10年前と比較して宿泊者数が約1.6倍に増加しています。さらに、外国人観光客数は、10年前と比較して約8倍に増加しています。

令和元年度は3年に一度の藤枝大祭りが開催され、また藤まつりにおいて改元記念イベントが行われるなど、活発な観光交流が行われました。

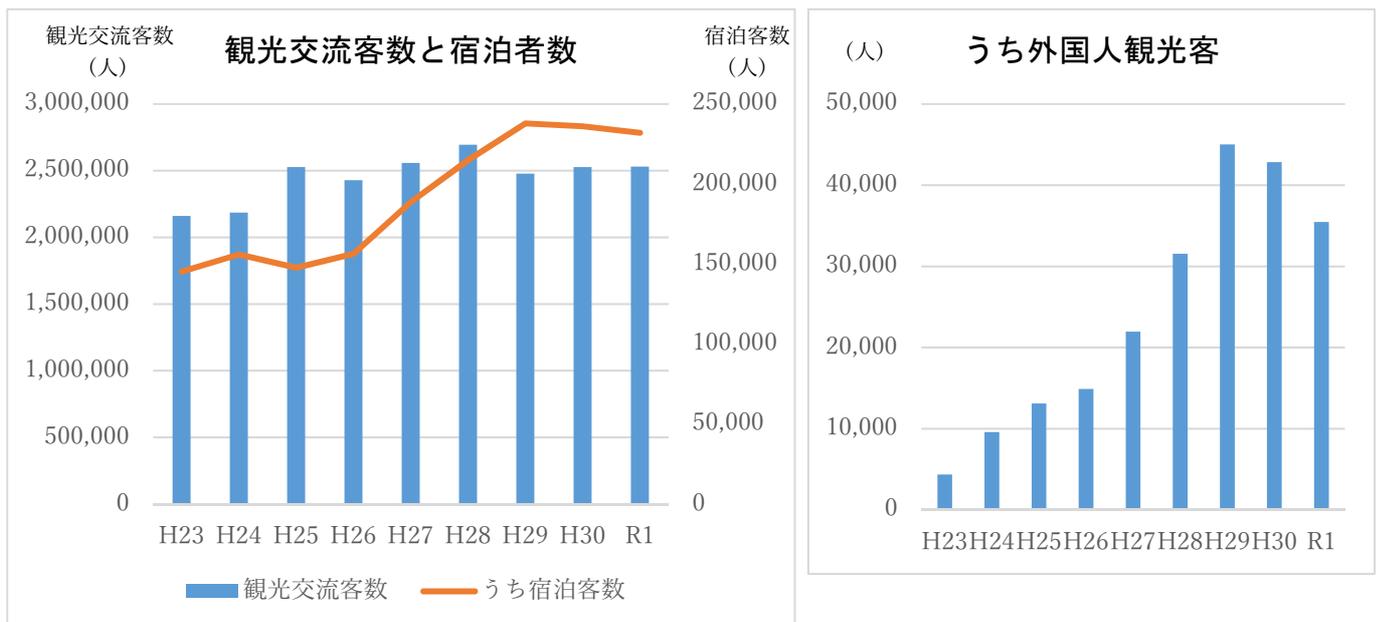
毎年開催される催しのなかで、令和元年度に最も観光交流客数が多かったのは藤まつり（25万人）で、藤枝花火大会（17万人）、桜まつり（5万4千人）、せとやまるかじり（2万4千人）と続きます。

また、隔年で開催される催しでは、3年ごとに開催される藤枝大祭りには25万5千人（令和元年度）が、2年ごとに開催される朝比奈大龍勢には2万3千人（平成30年度）が来場しました。

令和元年度の観光交流客数を目的別で集計すると、体験目的が44万7千人、レジャー目的が94万人、イベント目的が91万1千人となり、併せて宿泊客数は23万2千人を数えます。

本市には滞在型観光商品が少ないこと、宿泊施設もビジネス客向けが多いこと、また宿泊者数が体験・レジャー・イベント目的の観光交流客数の1割程度であることから、本市の観光にあっては日帰り客がその大半を占めていると考えられます。

本市の令和元年度の来訪外国人観光客数は、3万5千人でした。このうち、玉露の里への来訪者数は3万人で、国別では、中国が83%と最も多く、次いで台湾（10%）、フランス（3%）の順となっています。





第3章 本市が目指す観光

1. 本市の地域資源

本市には、「東海道宇津ノ谷峠越」をはじめ、「田中城下屋敷」や「大旅籠柏屋」などの旧東海道の「街道文化」、「藤枝大祭り」や「朝比奈大龍勢」などの貴重な無形民俗文化財や伝統芸能が残されています。特に、令和2年に本市の旧東海道に点在する街道文化が日本遺産として認定されたことの影響は大きく、今後新たな誘客が期待できます。

さらに、桜まつりや藤まつり、藤枝花火大会、滝ノ谷不動峡もみじまつりなどといった季節ごとの大規模誘客イベントが実施されています。イベントや無形民俗文化財、伝統芸能は、担い手である地域住民の積極的な活動により支えられています。

常設の誘客施設としては、年間150万人を超える来園者を数える蓮華寺池公園をはじめ、陶芸センターやおれっぶ大久保など、特色ある施設が市内に開設されています。

また、スポーツ文化も本市に深く根付いており、市内では各種スポーツの大会や合宿が開かれています。特に「サッカー」については、「する」・「みる」だけでなく、大会開催・運営や選手の育成にも多くの市民が関わっています。サッカー文化は本市の誇りでもあり、合宿誘致などサッカーを切り口とした市民交流が行われています。

ほかにも、中山間地域を中心とした里山や瀬戸川・朝比奈川の豊かな自然環境、「お茶」、「地酒」、「しいたけ」などの特産品、「せとやコロッケ」「スイーツ」「朝ラーメン」などの食文化、「花火」、「雛人形」を生み出す職人技など、本市は豊富な地域資源【まちの宝】に恵まれています。

近年では「カシス」「オリーブ」「マンゴー」など新たな特産品も生み出されており、新たな観光資源としての活用が期待できます。

これらの地域資源【まちの宝】を活かそうとする地域組織や地域の核となる人材により、積極的な地域活動が行われています。

主要な地域資源

産業	農産品：お茶・玉露、椎茸、カシス、オリーブ、マンゴー、筍、みかん、梨など 食資源：地酒・居酒屋、朝ラーメン、スイーツ、せとやコロッケなど 工業：花火、雛人形など
自然 ・ 景観	河川：瀬戸川、朝比奈川、宇嶺の滝、白藤の滝、不動男女の滝など 山：高根山、高尾山、石谷山（びく石）など 樹木：鼻崎の大スギ、滝ノ谷不動峡の紅葉、大慶寺久遠のマツ、大茶樹など 花：藤（蓮華寺池公園ほか）、桜（瀬戸川ほか）、コスモス（殿ほか）など
歴史 ・ 文化	東海道：大旅籠柏屋、宇津ノ谷峠、明治のトンネルなど 城跡：田中城下屋敷、花倉城跡、朝比奈城址など 史跡：志太郡衙跡、若王子古墳群、木和田川砂防堰堤など 文化：サッカー、陶芸、文学など
観光施設	蓮華寺池公園、瀬戸谷温泉ゆらく、玉露の里、陶芸センター、藤枝総合運動公園、おれっぶ大久保キャンプ場・グラススキー場、藤枝市民グラウンド、いちご狩り施設、田舎暮らし体験施設、宿泊・農泊施設、東海自然歩道、ハイキングコースなど

主要なまつり・イベント

名称	開催時期	分類
藤枝リバティ駅伝	1月下旬	スポーツ
滝沢八坂神社田遊び	2月中旬	伝統行事
大旅籠柏屋ひなまつり	2月中旬～4月上旬	季節行事
ふじえだマラソン	3月上旬	スポーツ
びく石まつり	3月下旬	地域イベント
金比羅山・瀬戸川桜まつり	3月下旬～4月上旬	市民まつり
藤まつり	4月下旬～5月5日	市民まつり
藤枝花火大会	8月7日	市民まつり
全国PK選手権大会 inFujieda	8月中旬	スポーツ
かみころばしと七十五膳	9月中旬（3年に1度）	伝統行事
藤枝大祭り	10月第1金～日曜（3年毎）	伝統行事
朝比奈大龍勢	10月第3土曜（隔年）	伝統行事
ふじえだ産業祭	10月下旬（隔年）	産業
フード！スマイルフェスティバル	10月下旬（隔年）	産業
高根白山神社古代神楽	10月29日	伝統行事
滝ノ谷不動峡もみじまつり	11月下旬	市民まつり
せとやまるかじり	11月下旬	地域イベント
ルミスタ★ふじえだ	11月下旬～冬季限定	イルミネーション

2. 旅行者の行動・意識変化

近年、観光に対する旅行者のニーズは変化し、従来からの観光地を巡る「見る観光」から、旅先での個々人の満足度が重要視される「体験する観光」の需要が増えるとともに、旅行形態も職場旅行などの団体旅行から個人旅行にシフトし、さらにマイクロツーリズムの需要が生じています。

また、行政や観光団体による公式の情報発信だけでなく、口コミをはじめとした個人の情報発信力がスマートフォンの普及により大きく強化されたため、個人発信の情報も地域のブランドイメージ形成に大きな影響を与えており、旅行者の訪問先選択にあたり重要な要素となっています。

無形民俗文化財：衣食住、生業、信仰、年中行事などに関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術など、人々が日常生活の中で生み出し継承してきたもの。

マイクロツーリズム：自宅から1時間から2時間圏内の地元または近隣への宿泊観光や日帰り観光のこと。

日本遺産：文化庁が認定した地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーのこと。

3. 本市の観光における優位性と課題

本市における観光産業の優位性（強み）と課題（弱み）を分析すると、次のようになります。

	優位性（強み）	課題（弱み）
内 的 要 因	<ul style="list-style-type: none"> ・藤まつり、藤枝花火大会、藤枝大祭り、朝比奈大龍勢などの集客力のあるイベントや地域独自の伝統文化がある。 ・日本遺産に認定された旧東海道の街道文化が充実している。 ・お茶、地酒、サッカー、花火など全国的に知名度の高い産業資源がある。 ・市民主導による体験型観光プログラムが開発されている。 ・観光ボランティアガイド団体が複数活動している。 ・保勝会、山岳会、町内会など地域活動団体により観光資源が維持管理されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント開催時の駐車場が不足している。 ・大型観光バスの駐車場が限られている。 ・市内を自由に回遊することが難しい。 ・高齢化や人員不足により、地域活動団体の維持が難しい。
外 的 要 因	<ul style="list-style-type: none"> ・空港、鉄道、高速道路等の交通アクセスが整備されている。 ・駅前を中心にホテルの立地が進んでいる。 ・東京－大阪間のゴールデンルート上に位置している。 ・近隣市町と広域連携組織を形成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣市町と観光需要が競合している。 ・ゴールデンルート上の主要空港から立ち寄る、ヨーロッパ・オセアニア方面からのインバウンド客が少ない。

1 (内的要因・優位性) から、集客力のある市民まつりや歴史あるイベント、知名度向上が期待される日本遺産やハイキングコース・観光施設など、地域住民により支えられている地域資源に恵まれていることがわかります。また、地域資源にふれる体験型プログラムや、観光ボランティアガイドによる来訪者へのおもてなしなど、より本市を楽しんでもらえる環境が提供されており、今後一層の充実が求められています。

体験型観光：従来の物見遊山的な観光旅行に対して、その地域でしか体験できない要素を取り入れた旅行の形態のこと。

2 (外的要因・優位性) から、交通アクセスの整備が進んでおり、広域連携団体による広範囲へのプロモーションもあいまって、本市への来訪・立ち寄りを容易にしていることがわかります。また、宿泊施設の立地が進むことで、宿泊のキャパシティが増え、来訪者の長期滞在と地域経済の活性化につながるため、宿泊を伴う観光事業が求められています。

3 (内的要因・課題) に見られるイベント時の駐車場不足や市内回遊手段の不足といった交通関係の課題は、公共交通やICTの活用などによる解決が必要です。また、地域活動団体の維持については、地域や行政が一丸となって解決していくことが求められています。

4 (外的要因・課題) に見られる近隣市町との競合については、広域連携組織によるスケールメリットを活かし、近隣市町の地域資源と連携した一体的な広域観光の実施により解消することが可能です。また、インバウンド客の偏りについては、新たな地域からの誘客が求められています。

4. 基本理念と施策体系

本市のもつ多彩な地域資源【まちの宝】を、市民や観光交流に関わる各種団体・観光関連事業者、地域経済団体、観光協会、行政が互いに連携を図った「地域の力」で磨き上げ、まちの活性化を図ります。また、来訪者が本市に関心を持ち、回遊をしたくなるまちを目指し、誘客につながる取り組みを戦略的に推進します。

基本理念	目指す姿	基本方針	基本施策
まちの宝と地域の力でつくる 【観光交流都市・ふじえだ】	訪れたいくなるまち・巡りたいくなるまち	1 地域資源を活かした 交流機会の創出	(1) 市民まつり等のイベント・文化・スポーツによる交流機会の創出
			(2) 地域資源の魅力に触れる交流機会の創出
			(3) 産業と健康による交流機会の創出
		2 多様性に配慮した受入 環境の整備	(1) 来訪者受入態勢と施設の充実
			(2) 新しい生活様式への対応
		3 国内外誘客活動の推進	(1) 国内外プロモーションの実施
(2) 広域連携による誘客推進			

5. 計画推進のための主体・役割

本計画の推進にあたっては、市民、観光交流に関わる各種団体、観光関連事業者、地域経済団体、観光協会、行政・教育の役割を明確にし、それぞれの特徴と強みを活かしながら、互いに連携を図り、協働して進めます。

	実施主体	主な役割
市民・民間団体	市民、観光交流に関わる各種団体 観光ボランティア、地域おこし協力隊、保勝会、保存会、自治会、町内会、地域活性化団体、スポーツ協会、国際友好協会など	<ul style="list-style-type: none"> ● 郷土愛とおもてなし意識による来訪者の受入 ● 地域資源の市内外への紹介 ● 地域のまちづくり活動への積極的な参画 ● 地域の魅力づくりに関わる活動のけん引 ● イベントの開催協力や来訪者とのふれあい機会創出 ● 伝統文化の継承と自然環境の保全 ● 地域内外における多様な活動の実施や協力
	観光関連事業者 観光・スポーツ・歴史文化施設、宿泊事業者、旅行事業者、商店街、交通事業者、農家、商店主、職人など	<ul style="list-style-type: none"> ● 集客につながる事業の実施 ● 来訪者に対するおもてなし態勢の充実 ● 施設設備などの適正管理と魅力・利便性の向上 ● 地域のまちづくり活動への参画や協力、支援
事業者・地域経済団体等	地域経済団体 まちづくり藤枝、藤枝商工会議所、岡部町商工会、大井川農業協同組合など	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政や観光関連事業者が実施する事業への協力 ● 経済活性化に繋がる事業の実施 ● 消費や販路拡大など地域経済活性化の協力 ● 地域のまちづくり活動への参画や協力、支援
	観光協会 藤枝市観光協会、静岡県観光協会、するが企画観光局など	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光情報の集約と効果的な発信 ● 交流・関係人口の増加のためのイベント開催及び支援 ● すべての観光関係者との調整と誘客促進 ● 自主事業の充実や観光商品の開発・販売
行政等	行政・教育機関 藤枝市、静岡県、小学校、中学校、高等学校、大学、広域連携組織、近隣市町など	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光振興に関わる基盤整備の実施 ● 観光に関わる事業展開を円滑に進める仕組の構築 ● 観光関連事業全体への協力、支援 ● 観光を活用したシティ・プロモーションの実施

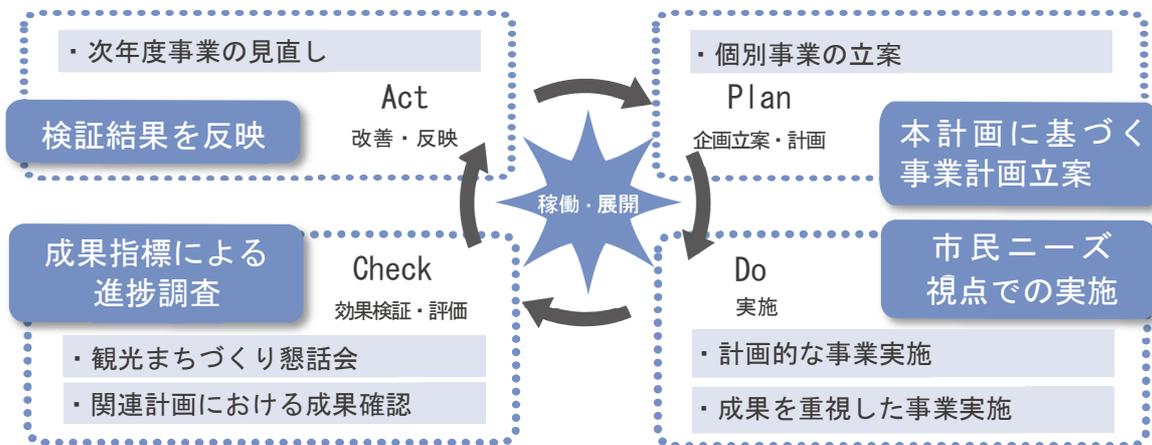
交流人口：その地域に訪れる人々のことで、その地域に住んでいる人（定住人口）に対する概念。
 関係人口：継続的な関心や交流を通じ、様々な形で地域を支える人々のこと。

6. 計画の推進体制

本計画の推進にあたり、観光関連事業者のみならず、市民、各種団体、行政のそれぞれが立場に応じた、自主的、かつ積極的な取り組みにあたるとともに、実現に向けたパートナーシップ関係の構築を行います。

また、庁内の連絡体制により横断的な施策の戦略推進を図るとともに、市観光協会や観光関連事業者、外部有識者などにより構成した「観光まちづくり懇話会」を設置し、意見・提案を反映していきます。

観光を取り巻く社会状況の変化は早いことから、本計画に定められた施策の進捗状況と達成・未達成の要因を把握し、時代背景・社会情勢に合わない施策の見直しを柔軟的に行えるよう、PDCAサイクルを稼働します。



7. 数値目標

本計画の目指す姿及び基本方針1～3の達成度を計るため、次の数値目標を定めます。

項目	KPI	令和元年度	令和7年度
【目指す姿】 訪れたいまち・巡りたいまち	年間観光交流客数	253万人	258万人
【基本方針1】 地域資源を活かした交流機会の創出	街道遺産来訪者数	62,675人	67,300人
【基本方針2】 多様性に配慮した受入環境の整備	観光ボランティア案内件数	42件	63件
【基本方針3】 国内外誘客活動の推進	外国人観光交流客数	35,460人	45,500人

8. 新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症により、今後、少人数での旅行やマイクロツーリズム、仮想空間による疑似体験、オンライン旅行といった「3密」を避ける観光形態の一般化など、観光への考え方が大きく変化する可能性があります。

そのため、誘客事業の実施にあたっては、観光ニーズの状況を的確にとらえ、柔軟に対応していきます。

また、前項の数値目標については、新型コロナウイルス感染症の収束を前提に設定しているため、感染症の影響が長期化した場合は、必要に応じて見直すものとします。



第4章 基本方針と基本施策

基本方針1 地域資源を活かした交流機会の創出

基本施策(1) 市民まつり等のイベント・文化・スポーツによる 交流機会の創出

① 市民まつり等のイベントによる交流

大規模な誘客を可能とするイベントにより交流・関係人口の拡大を図るとともに、来訪者による地域経済の活性化を促進するため、桜まつり、藤まつり、藤枝花火大会などの市民まつりを中心とした魅力あるイベントを市民や民間団体と連携して開催します。

また、イベントを活用して商店街や地元企業、地場製品のPRを行い、シティ・プロモーションの場として活用するとともに、地域の活性化を図ります。

取組内容

市民まつりなど大規模イベントの開催

市民の憩いの場や賑わいの創出、また交流客の増加を契機とした地域振興のために、藤枝市観光協会が中心となって「市民まつり」などの大規模イベントを開催するとともに、地域住民と連携して地域資源の保全や磨き上げを進めます。

多数の来場者が予想される際は、臨時駐車場の確保や交通渋滞解消の取組を行い、周辺住民に配慮した運営に努めます。

- ▶ 金比羅山・瀬戸川桜まつりの開催
- ▶ 藤まつりの開催
- ▶ 藤枝花火大会の開催
- ▶ 滝ノ谷不動峽もみじまつりの開催 など



金比羅山・瀬戸川桜まつり

藤枝駅周辺イベントの開催

交通の結節点であり市内外からのアクセスが良い藤枝駅周辺でイベントを開催し、駅周辺の賑わいを創出します。

また、駅周辺という好立地を利用し、宿泊・来訪者受入れによる交流人口の拡大を図ります。

- ▶ LOVE LOCAL FUJIEDA 事業の開催
- ▶ て～しゃばストリートの開催
- ▶ ルミスタ★ふじえだファンタジックイルミネーションの実施
- ▶ 駅周辺店舗の回遊促進、宿泊促進 など

商店街でのイベント開催の推進

岡部地区、藤枝地区、駅周辺地区の商店街の賑わい創出と、地域の魅力発信のため、それぞれの商店街の特徴を活かしたイベントの開催を推進します。

- ▶ 商店街イベントの開催
- ▶ 商店街の回遊促進、宿泊促進 など

② 歴史文化による交流

規模や質が日本一と称される地踊りが披露される藤枝大祭りや打ち上げ技術の高さで全国的にも類を見ない朝比奈大龍勢など、全国に誇る貴重な無形民俗文化財をはじめとした伝統的祭礼や芸能の、実施の協力をするとともに広くPRを行います。

あわせて、市民に地域資源の歴史・文化的な価値を再認識させる機会を提供することで、市民による歴史文化の継承を促します。

取組内容

伝統的な祭礼や芸能の観光資源への活用

藤枝大祭りや朝比奈大龍勢をはじめとした全国に誇る貴重な民俗文化財の開催にあたり、歴史・文化的価値はもちろん魅力的な地域資源であることを強力にPRし、来訪者数の拡大を目指します。

あわせて、伝統や技術の次世代への継承を促進します。

- ▶ 藤枝大祭りの開催
- ▶ 朝比奈大龍勢の開催
- ▶ 高根白山神社古代神楽、滝沢八坂神社田遊び、かみころばしと七十五膳などの無形民俗文化財保存団体への支援 など



朝比奈大龍勢

文化財などの保全と活用

本市に残る貴重な文化財や本市ゆかりの文学などを、行政と地域住民が連携して保全に努めるとともに、文化芸術の魅力を広くPRすることで、交流・関係人口の拡大を図ります。

- ▶ 博物館・文学館で開催する特別展・企画展による、地域の歴史・文化資源の魅力発信及び来訪機会の創出
- ▶ 博物館・文学館資料のデジタル公開による、地域の歴史・文化資源の魅力発信
- ▶ SNS等による博物館・文学館イベント等の情報発信力強化
- ▶ 博物館・文学館で開催するイベント・講座・ワークショップによる、地域の歴史・文化資源の魅力を体感・体験する機会の創出
- ▶ 若手芸術家の活動支援
- ▶ 村越化石俳句大会の開催
- ▶ 蓮華寺池芸術祭の開催
- ▶ 交流都市芸術祭の開催 など

③ 日本遺産を活用した交流

全国で104件、県内では2例目となる日本遺産を本市の強みと位置付け、行政、観光、産業の関係者が、一体となって東海道の歴史文化資源を活用し、地域の魅力、価値を向上させることにより、地域住民の郷土愛の醸成や東海道のブランド化を図り、街道観光の確立と地域の活性化を目指します。

取組内容

日本遺産をテーマにした誘客促進

日本遺産の認定を契機に民間事業者、団体などと積極的に連携し、地域を巻き込んだ持続可能な受入体制の構築を図るとともに、日本遺産をはじめとする本市の街道文化の魅力や価値を伝え、体感できる環境整備に取り組みます。また、日本遺産ブランドを活用し、国内外に広くPRすることで、外国人観光客を含む誘客の促進を図ります。

- ▶ 富士山静岡空港就航先都市、姉妹都市、友好都市への情報発信
- ▶ 日本遺産の推進
- ▶ 東海道ブランド化の推進
- ▶ 街道・宿場文化の情報発信
- ▶ 岡部宿大旅籠柏屋の運営
- ▶ 東海道の宿場連携の実施 など



大旅籠柏屋・内野本陣

来訪者の市内への回遊促進

日本遺産を訪れる方々に、構成文化財周辺にある本市の名所、名産品や観光施設を紹介するなど、地域ならではの価値や体験を付加することで、さらなる魅力の創出と市内における回遊の促進を図ります。

- ▶ 東海道を会場として実施する文化イベント等への助成
- ▶ 東海道岡部宿にぎわいまつりの開催
- ▶ 玉露の里など市内外観光・文化施設との連携の実施 など

④ スポーツによる交流

全国に名を知られる「サッカーのまち」をはじめ、野球やバスケットボールなど全国的に著名な本市のスポーツ活動を推進し、来訪者数の増加を図ります。

また、交流人口の増加による地域経済の活性化や市民との交流、シビックプライドの醸成につなげるため、スポーツ合宿の誘致やスポーツ大会の開催及び運営支援などを行います。



©2020 FUJIEDA MYFC

Jリーグ所属 藤枝 MYFC

取組内容

スポーツ合宿などの誘致促進

サッカーグラウンド、ライフル射撃場、武道館など本市が有するスポーツ施設を活用してスポーツ合宿誘致を行います。併せて、利用者となりうる団体等への本市の設備環境、誘致推進事業のPRを行います。

- ▶ コンベンション、合宿等の誘致促進事業の実施・拡充
- ▶ 企業、スポーツ団体、学校への市内スポーツ施設や誘致促進制度の周知 など

大会などスポーツイベントの開催

市民交流の機会を増やすためにスポーツ大会やイベントを開催するとともに、会場周辺の飲食店や宿泊施設の利用を促します。

また、より多くの来訪者を募るよう、参加者や関係者のみならず家族、友人も楽しめる魅力的なイベントとします。

- ▶ 市民が気軽に参加できるサッカーイベントの開催
- ▶ 各種サッカー大会の支援
- ▶ 誰もが気軽に参加できるスポーツイベントの開催 など



全国PK選手権大会 in Fujieda

スポーツを活用した都市間交流の促進

スポーツイベントを活用して近隣市や姉妹都市、友好都市との都市間交流を活性化させ、住民同士の相互理解を深めます。

- ▶ スポーツ・文化イベントを通じた姉妹都市、友好都市等との相互交流の支援 など

シビックプライド：都市に対する市民の誇りを指す言葉。

コンベンション：企業が新製品の情報などを発信する展示会や見本市、学者らが研究成果を発表したり、意見交換したりする学術会議、国内外の研究者が集う国際会議のこと。

基本施策（２）地域資源の魅力に触れる交流機会の創出

① 体験型観光の推進

本市が保有する地域資源「まちの宝」を着地型観光「体験型観光」に活用し、来訪者数の増加を図るため、地域資源の掘り起こしや魅力あるコンテンツへの磨き上げを行います。また、体験型観光の推進により、交流・関係人口の拡大を図り、地域社会・経済の活性化を促進します。

あわせて、地域や市民が主体となり、観光客を誘客し受け入れる活動を行うことで、今まで気が付いていなかった地域の魅力を再認識し、郷土愛を育んだ地域コミュニティの形成を図ります。

取組内容

地域資源「まちの宝」の掘起しと磨き上げ

当市が保有する自然、文化、歴史、産業、環境、健康、スポーツ、茶摘み、フルーツ狩りなどに代表される農業体験など、あらゆる地域資源を掘り起し、これらを誰もが触れることができる「体験型観光」という商品にブラッシュアップし、積極的に情報発信することにより、交流人口拡大のプロモーションツールとして活用します。

- ▶ 新たな体験型観光商品の開発と展開
- ▶ 通年型／期間限定型体験プログラムの開催
- ▶ 外国人向け体験プログラムの開発
- ▶ マイクロツーリズムの推進
- ▶ グリーン・ツーリズムの推進 など



天下一闘茶会

体験型観光の取組拡大

地域住民が主体となり、関係者（行政、民間事業者、教育機関）とともに地域資源を活用した体験型観光プログラムの開発を支援し、取組の拡大を図ります。

- ▶ 地域をとりまとめる人材の発掘と育成
- ▶ 民間事業者や地域活性化団体等と連携した
体験型観光の推進
- ▶ 地域活性化団体の活動支援 など
- ▶ 藤枝おんぱくの活動支援



藤枝おんぱく

グリーン・ツーリズム：農山漁村に滞在し農漁業体験を楽しみ、地域の人々との交流を図る余暇活動のこと。

② 自然とふじえだ花回廊を活かした交流

中山間地域をはじめとした市内全域への来訪者の回遊を促進し、交流機会の創出と交流人口の拡大を図り、ひいては交流による地域の活性化を図るため、本市が保有する豊かな自然や景観を観光資源として活用します。

また、豊かな自然環境を後世に残すため、地域住民とともに環境保全に努め、持続可能な地域発展を目指します。

取組内容

中山間地域の豊かな自然等を活かした観光の推進

中山間地域が持つ施設、自然など、地域ならではの資源を観光と結び付けたグリーン・ツーリズムを推進します。

- ▶中山間地域活性化施設や田舎暮らし体験施設等の活用
- ▶せとやまるかじりや滝ノ谷不動峡もみじまつりなどのイベント開催
- ▶宇嶺の滝、白藤の滝やびく石など、風光明媚な景観を活かした観光PRの実施
- ▶県中部地域北部の観光地の周遊回廊ルートづくり
- ▶グリーン・ツーリズムの推進地域のキーパーソンの発掘と育成 など



せとやまるかじり

豊かな資源を活かした観光の推進

市街地に豊かに広がる自然を活用した観光資源の発掘や、ハイキングコースなどを整備します。

- ▶市民総ぐるみにより地域の特色を活かした「ふじえだ花回廊」の推進
- ▶蓮華寺池公園再整備事業による魅力の向上
- ▶岡出山公園再整備事業による魅力の向上
- ▶公共交通利用と地域資源の活用を兼ねたイベントの開催
- ▶東海自然歩道をはじめとしたハイキングコースや景勝地の魅力強化と安全性・利便性の向上 など



花回廊の活動

自然・景観の保全

びく石山頂など市内に点在する風光明媚な眺望を、市民や地域団体と協力して維持管理に努め、これら団体等への支援を行います。

- ▶保勝会や自治会などによる自然や景観の保全・維持活動と支援
- ▶県景観条例や市景観条例、景観計画等に基づく観光地域づくり
- ▶景観保全のための観光地エリアマネジメント計画の策定 など



びく石山頂からの風景

③ 陶芸を活かした交流

中山間地域の特色ある地域資源のひとつである「陶芸」の一層の振興と、陶芸をキーワードとした来訪者の獲得、そして陶芸を活用した更なる地域活性化を図るため、新陶芸センターを瀬戸谷温泉ゆらく周辺へ整備します。

併せて、新陶芸センターを広域交流拠点と位置づけ、他の観光資源との結び付きにより、交流人口の拡大を図ります。

取組内容

新陶芸センターの整備

年間1.5万人の利用があり、中山間地域の集客拠点のひとつである瀬戸谷温泉ゆらく周辺に、新たに陶芸センターを整備します。また、道の駅機能を付与することで、中山間地域の情報発信を強化し、周遊につなげます。

▶新陶芸センターの整備 など



陶芸センター

新たな市内回遊性の創造

新陶芸センターを、サイクリング、キャンプ、芸術、産業など市内既存の様々な観光資源と連携させることにより、来訪者の市内回遊を促進します。

▶中山間地域活性化施設の連携推進 など



田舎暮らし体験施設「やまあい」

④ 道の駅を活かした交流

来訪者の本市への立ち寄りや市内回遊を促進するため、本市の主要国・県道沿いに立地する道の駅を活用し、市外から観光資源への訪問をしやすくするとともに、道の駅への機能付与などにより魅力を向上させます。

現在整備されている「宇津ノ谷峠」「玉露の里」に加え、今後整備予定の道の駅を回遊の拠点として活用を進めます。

取組内容

道の駅「玉露の里」を活用した誘客

日本ならではの文化を発信できる「玉露の里」を活用し、多様な国々からの訪日外国人旅行者の獲得を図ります。

また、朝比奈エリアの観光拠点として民宿等の周辺施設と連携するとともに、隣接する岡部エリアの観光拠点である岡部宿大旅籠柏屋などとの連携を進めます。



道の駅玉露の里「茶の華亭」

- ▶道の駅玉露の里を拠点とした岡部・朝比奈エリアの回遊 など
- ▶玉露の里お茶まつりや観月祭等のイベント実施 など

道の駅「宇津ノ谷峠」を活用した誘客

令和2年に認定された日本遺産へアプローチできる東の玄関口として、本市と静岡市の日本遺産の構成文化財と連携し、施設相互の利用促進につなげます。

- ▶道の駅宇津ノ谷峠と日本遺産との連携推進 など

新たな道の駅を活用した誘客

今後瀬戸谷地区などに整備が予定されている道の駅を利用し、陶芸、温泉、天空の回廊など地域資源を活かした広域からの誘客を図ります。

- ▶瀬戸谷地区における道の駅整備 など

基本施策（3）産業と健康による交流機会の創出

① お茶を活かした交流

古くから香り高い銘茶の産地として全国的な知名度を誇り、本市を代表する産業のひとつである「お茶」を観光資源として活用し、交流人口の拡大につなげるため、生産者、販売事業者をはじめ、お茶に関わる関係者が連携して茶産業やお茶文化を活かした誘客促進を図ります。

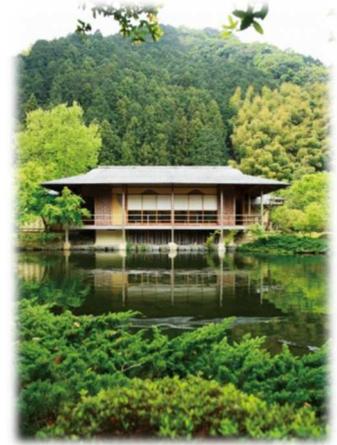
取組内容

お茶を活かした観光の推進

「玉露の里」などのお茶をテーマとした施設や、茶業により美しさが保たれている茶園景観を活用し、茶摘み、手揉みなどの体験型観光や茶工場見学などの産業観光を推進し、交流人口の拡大を促進します。

また、日本ならではの茶文化の発信や活用により、インバウンド客の獲得を図ります。

- ▶ 玉露の里を活用した誘客促進
- ▶ 玉露（お茶）を活用した体験型観光などの推進 など



玉露の里「瓢月亭」

お茶のブランド化と茶業の振興

「藤枝茶」・「朝比奈玉露」のブランド力を高め、産業祭や物産展、国内外の観光イベントなど、あらゆる機会に藤枝産のお茶を積極的にPRし、お茶の消費や販路の拡大を図り、茶業の振興による知名度向上と来訪機会の創出につなげます。

- ▶ 市民まつりでの藤枝茶のPR など

お茶文化の伝承

玉露の里や、旧藤枝製茶貿易商館を活用して、お茶文化を伝承するとともに、小学生、中学生を対象とした各種講座を実施し、子供達へお茶文化を継承します。

- ▶ 玉露の里を活用したお茶文化の伝承
- ▶ 旧藤枝製茶貿易商館（通称：とんがり屋根）を活用した藤枝茶の情報発信
- ▶ お茶を活用した農泊や食文化の海外発信
- ▶ 茶手揉み保存会等の活動支援と連携
- ▶ 藤枝ジュニアお茶博士・藤枝ジュニアお茶大使の認定 など



藤枝ジュニアお茶博士

② 食と産業による交流

農産品や食品の消費拡大や、来訪者と関係者の交流による地域経済の活性化のため、本市の食材や食文化を食観光のツールとして活用します。また、食材・食品のブランド化を推進し、国内外への販路拡大を目指します。

さらに、本市農商工業の生産地や技術、製造施設など、産業に関わる要素を観光資源として活用し、本市の製品をPRするとともに、来訪者が生産者と交流することで、産業技術の伝承、雇用の確保、新商品の開発などを促し、地域産業の振興を図ります。

取組内容

食と地域産業を活かしたシティ・プロモーションの推進

食をテーマにしたイベント等を通じて、食材・食品と共に生産者・販売業者をPRし、消費と販路拡大に繋がります。また、ご当地グルメのように地域の「食」や産業をブランド化し、人の流れを創出するなどシティ・プロモーションのツールとして活用します。

- ▶ 藤枝ブランド戦略事業、6次産業化推進事業によるシティ・プロモーションの推進
- ▶ ふじえだ産業祭やフード！スマイルフェスティバル、食育フェア等の開催
- ▶ ふじえだファクトリーツアーの開催
- ▶ 地酒、居酒屋、朝ラーなど地域の「食」をテーマにした観光プロモーションの実施
- ▶ 藤枝市観光案内所での地場産品等販売
- ▶ オリーブ園など観光体験農園の利用促進
- ▶ ふるさと納税における地場産品等提供 など



リニューアルした藤枝市観光案内所

6次産業化：農林漁業の一次産業と、製造業の二次産業、小売業などの三次産業の一体的な推進により、新たな付加価値を生み出す取り組みのこと。

③ 健康を活かした交流

近年関心が高まっている「健康と観光」により本市への来訪のきっかけをつくり、交流人口の拡大を図るため、観光資源に健康増進の要素を組み込み、スポーツ、サイクリング、ウォーキングなどをテーマにしたヘルスツーリズムに関連した取り組みを行うとともに、健康増進につながる観光資源をPRします。

取組内容

健康増進を目的としたイベントの開催

本市の観光資源への立ち寄りを促進し、さらに参加することで健康増進につながる、ウォーキングイベントなどを開催します。

- ▶ 「元気ふじえだ健康ウォーキング」の開催
- ▶ J R東海主催「さわやかウォーキング」の誘致 など



健康ウォーキング

健康に関心の高い人々へのPR

病院、介護施設、スポーツジム、スポーツショップなど健康志向が高い方の利用率が高い施設の利用者をターゲットとし、コンテンツの周知を行います。

- ▶ 健康スポット 20 選マップの作成・配布
- ▶ ハイキングマップの作成・配布
- ▶ サイクリングマップの作成・配布 など

ハイキングコース、ウォーキングコースの整備と活用

自然豊かな市内のハイキングコースやウォーキングコースを、安全・安心、快適に歩くことが出来るように整備を進めるとともに、健康目的での来訪を促すためのイベントを実施します。

あわせて、当該コースを管理する保勝会などの団体に支援を行い、継続した活動ができるような体制を整えます。

- ▶ 東海自然歩道などハイキングコースの整備
- ▶ ハイカーを対象とした「びく石まつり」の開催 など



びく石まつり

ヘルスツーリズム：旅行という非日常的な楽しみの中で、旅行中のトラブルを回避したり、医学的な根拠に基づく健康回復や健康増進を図るもの。

基本方針2 多様性に配慮した受入環境の整備

基本施策(1) 来訪者受入態勢と施設の充実

① おもてなし基盤の充実

本市来訪者が快適に滞在できる環境を提供し、満足度の向上による本市への再訪につなげるため、市民や観光関係者による「おもてなし」意識の醸成と、来訪・滞在しやすい環境の整備や態勢の構築、サービスの提供など、「おもてなし」基盤の充実を図ります。

あわせて、ユニバーサルデザインの一層の普及により、どなたでも安心して市内の回遊を楽しめる環境を提供します。

取組内容

「おもてなし」意識の醸成

「おもてなし」に関する講座・研修会の開催や、体験型観光プログラム開発、イベント参加やボランティア参加の機会を活用し、観光に携わる市民や観光関係者に対して「おもてなし」意識の醸成を図ります。

- ▶おもてなし講演会・研修会の開催 など

「おもてなし」環境の整備

本市を訪れる方に対して、国、地域、文化、宗教、性差、身体など様々な違いに対して、地域や受入施設の「おもてなし」環境の整備を推進します。

- ▶観光施設等へのユニバーサルデザイン導入や多言語表記化推進
- ▶観光施設等の Wi-Fi 整備の推進
- ▶観光施設等の洋式トイレ化推進 など



観光ボランティアによる案内

「おもてなし」態勢の充実

行政、市民、観光関係者が連携して、来訪者を迎え入れる「おもてなし」の態勢を充実させ、交流人口の拡大とリピーターの確保を図ります。

- ▶観光ボランティアガイドの育成と活用
- ▶多言語観光ボランティアガイドの育成検討 など

ユニバーサルデザイン：障害の有無や年齢、性別、人種などにかかわらず、できるだけ多くの人々が利用しやすいように製品やサービス、環境をデザインする考え方のこと。

② 交通手段の充実と活用

観光資源や施設間連携による交流人口の拡大を図るため、本市を取巻く多様な交通アクセスの利便性を活用して、富士山静岡空港や東名高速道路、新東名高速道路、JR 東海道本線、首都圏と藤枝駅を結ぶ高速バス「渋谷ライナー」による広域観光ルートを確立し、誘客を促進します。

あわせて、路線バスなどの公共交通機関やシェアサイクル等の活用を推進し、市内を周遊できる環境整備を行うとともに、市街地と中山間地域への回遊を図り、交流人口の拡大につなげます。

取組内容

路線バスやタクシーなど公共交通を活用した誘客推進

観光振興と路線バスや高速バス、タクシーの活用を目的とした観光商品の開発などの誘客事業を行い、交流人口の拡大による地域の活性化と、路線バスの利活用を推進します。

- ▶ 自主運行バスの運行
- ▶ 公共交通利用と地域資源の活用を兼ねたイベントの開催
- ▶ 路線バス、高速バス、タクシーなど公共交通を利用した観光商品の検討
- ▶ 来訪者の二次交通利用促進商品の検討 など

富士山静岡空港と空港アクセスバスの活用推進

静岡県や富士山静岡空港(株)などと連携し、富士山静岡空港と本市中心市街地を直結する空港アクセスバスの利活用を推進します。

- ▶ 富士山静岡空港アクセスバスの運行
- ▶ アクセスバス利用者向けの回遊を促進する取組の検討・実施 など



富士山静岡空港アクセスバス

シェアサイクル等の活用推進

来訪者や市民が気軽に利用できるシェアサイクルなどの整備を推進し、駅周辺を中心市街地と市内の観光施設などを結ぶことで、回遊性の向上につなげます。

- ▶ 街なかシェアサイクルの整備 など



シェアサイクルとステーション

二次交通：複数の交通機関等を使用する場合の、2種類目の交通機関のこと。主には、鉄道駅から路線バスやタクシー、自転車などを使って、観光地などへ赴く交通手段のことが言われる。
シェアサイクル：自転車を有料で貸し出す事業の一つ。広義のレンタサイクルであるが、自転車を共有するという概念の下で、特定のステーションで短時間の借り出し、乗り捨て自由とする形態。

③ 観光施設の魅力向上

蓮華寺池公園や玉露の里、瀬戸谷温泉ゆらくなど、恒常的な来訪者がある観光施設において、訪れた方が楽しく、安全に、快適に、気持ちよく施設を利用してもらうため、施設の安全確保や利便性向上、施設美化を推進します。

また、施設間の連携を強化し、回遊性の向上を図ります。

取組内容

観光施設の安全確保と利便性の向上

観光施設の適切な維持管理に努め、観光施設利用者の安全を確保するとともに、利便性の向上を図ります。

- ▶ 観光施設の適正な維持管理
- ▶ 観光施設のユニバーサルデザイン化 など



蓮華寺池公園 イベント広場

観光施設の充実と魅力の創出

施設に必要な設備等の導入・整備により、観光施設自体の充実と魅力向上を図ります。

また、市民や地域団体と観光ボランティアガイド、通訳ガイドなどが連携して、観光施設や地域資源の魅力を伝えられる態勢を整えます。

- ▶ 蓮華寺池公園、岡出山公園などの公園や観光施設の整備事業による魅力の向上
- ▶ 保勝会や自治会、町内会などによる地域景観の美化
- ▶ 観光ボランティアの育成 など



蓮華寺池公園 ジャンボすべり台

観光施設と地域資源を結ぶ回遊機会の提供

観光施設と周辺の地域資源を結ぶ回遊事業を行うことで、来訪者の回遊を促進し、地域の活性化を図ります。

- ▶ 観光施設・中山間地域活性化施設などの連携強化 など

基本施策（２）新しい生活様式への対応

① ICTを活用した観光の推進

来訪者の滞在環境の向上を効率的に進めるため、現在様々な分野にて使われているICTを活用し、正確かつスピーディーに観光関連情報の処理や分析、サービスの提供などを行います。

ICT技術を利用したコミュニケーションツールにより来訪者へより具体的に情報を提供します。また、位置情報アプリや電子決済サービスの情報の活用などにより、本市の来訪者の傾向、ニーズ等を正確に把握し、効果的なマーケティングを行います。

取組内容

ICTを活用した来訪者の滞在支援

本市の観光プログラムや地域資源「まちの宝」をより簡単に、分かりやすく体験してもらえるようなコミュニケーションツールとしてICTを利用し、来訪者の満足度を高めるとともに、マイクロツーリズムの推進にICTを活用します。

- ▶ 藤枝大祭り山車追跡事業の検討
- ▶ キャッシュレスの推進
- ▶ x R等技術の観光案内やマイクロツーリズムへの活用検討
- ▶ 市内の移動を便利にする観光型M a a Sの導入検討 など



藤枝大祭り

ICTを活用した情報収集・分析

位置情報や決済情報などの情報解析をもとに、来訪者の傾向などを把握し、マーケティングや観光商品開発、イベント開催などへの活用を進めます。

- ▶ RESASなどを活用した観光マーケティング／マネジメント事業の検討 など

電子決済：商品またはサービスの代金の決済を、硬貨や紙幣などの通貨で支払うのではなく、通貨と同じ価値を持つデータの送受によって行う仕組みのこと。

x R：xRealityまたはCross Realityの略で、あらゆる仮想空間技術、空間拡張技術をまとめた呼び方のこと。

M a a S：Mobility as a Serviceの略で、ICTを活用して、自家用車以外の全ての交通手段による移動を一つのサービスとして捉えて、シームレスにつなぐ新たな移動の概念のこと。

RESAS：Regional Economy Society Analyzing System（地域経済分析システム）の略で、内閣府まち・ひと・しごと創生本部が運用している、産業構造や人口動態、人の流れなどに関する官民のビッグデータを集約し、可視化を試みるシステムのこと。

② ワークেশョンの推進

ICT技術の進歩と、多様な働き方の考え方浸透による新たな働き方のひとつ「ワークেশョン」の場を本市でも提供し、来訪者数の増加や滞在期間の長期化を促すため、ワークেশョンの受け入れ環境をハード・ソフト両面から整備していきます。

あわせて、ワークেশョンの需要調査を行うとともに、需要に適合した本市の地域資源を企業や従業員にPRし、ワークেশョン誘致を推進します。

取組内容

ワークেশョンに関する企業への動向調査

関東や関西など、県外に立地している企業へワークেশョンに関する実施状況や促進制度の有無などの調査を行い、ワークেশョンの場として利用される体制を整えるための情報収集を行います。

▶ワークেশョン動向調査の実施 など

ワークেশョン環境の創出

企業への動向調査をもとに、企業及び従業員が求める環境整備をハード・ソフトの両面から行います。併せて、ワークেশョンの体験ツアーを企画し、ワークেশョンの定着を図ると共に、ワークেশョンに関する本市の課題解決策を検討します。

また、企業研修などを本市で行うよう誘導することで、ビジネス目的の来訪者数を増加させるとともに、来訪者の本市滞在や市内消費を促します。

- ▶ワークেশョンを促す環境整備に対する支援
- ▶ワークেশョンモニターツアーの実施
- ▶企業研修を目的とした宿泊の支援制度の整備 など



おれっぷ大久保キャンプ場

企業、従業員等へのPR

企業や従業員をターゲットにしたワークেশョン環境や制度のPRを行い、利用促進を図ります。

- ▶首都圏等でのプロモーション実施
- ▶ホームページ等でのPR など

ワークとバケーションの関係強化

仕事をしながらも自然、文化、スポーツなどの地域資源を身近に感じてもらえるように、宿泊施設や交通業者と連携して回遊性向上や近隣観光施設の情報提供を積極的に行います。

- ▶ワークেশョン対応の体験型観光プログラムの開発 など

ワークেশョン：「ワーク」（労働）と「バケーション」（休暇）を組み合わせた造語で、観光地やリゾート地でテレワーク（リモートワーク）を活用し、働きながら休暇をとる過ごし方のこと。

基本方針3 国内外誘客活動の推進

基本施策（1）国内外プロモーションの実施

① 国内プロモーションの実施

本市の魅力あふれる地域資源を市内外に知らしめ、本市への来訪のきっかけをつくり、交流・関係人口の拡大につなげるため、様々な機会を利用して全国に本市の地域資源「まちの宝」の魅力を積極的に発信します。

また、友好都市などとの交流を通じて、文化・産業などの連携事業を創出し、本市の魅力を連携先の都市を経由して発信します。

さらに、中部横断自動車道開通による来訪が期待される、山梨・長野・新潟をはじめとした国内各地からの誘客を強化します。

取組内容

国内に向けた誘客促進

観光やビジネス、スポーツ等合宿、コンベンション、サッカー観戦など、来訪者の目的に応じて、周辺市町や近隣県、首都圏や中京圏、関西圏や富士山静岡空港就航先で観光プロモーションを展開します。

- ▶ 静岡県や周辺市町等との連携によるプロモーション活動の推進
- ▶ 富士山静岡空港や高速道路サービスエリアなどを活用したプロモーション活動の推進
- ▶ 民間事業者や地域活性化団体などと連携したプロモーション活動の推進 など

友好都市等との交流促進

友好都市やスポーツ・文化交流都市等との交流促進を行い、観光、産業、スポーツ、文化など、様々な分野で連携事業を展開します。

- ▶ スポーツ、文化イベントを通じた姉妹都市、友好都市等との相互交流の支援
- ▶ 友好都市等との都市間交流の推進 など

観光情報の充実と効果的な発信

本市が活用できるあらゆるメディアを活用し、幅広い観光情報を発信します。

特に、近年所有率が大幅に上昇したスマートフォンを活用して、SNSによりターゲットを絞った効果的な情報発信を行います。

- ▶ ふるさと納税を活用した情報発信
- ▶ 産官学民の協働によるシティ・プロモーションによる情報発信力の強化
- ▶ 藤枝市観光協会SNSによる「花ごよみ」情報の発信 など
- ▶ YouTube等のサービスを活用したイベントの動画配信 など

② 国外プロモーションの実施

東京オリンピック・パラリンピックや、大阪万国博覧会など、世界の注目が日本へ集まっている絶好の機会に、インバウンド客の獲得拡大を図るため、海外への情報発信や旅行事業者への誘客促進を行います。

特に、従前からの取り組みである東アジア諸国からの誘客に加え、本市への来訪が少ないヨーロッパ、北米、オセアニア地域からの誘客促進を図ります。

また、国際姉妹都市との相互理解を深めるとともに、交流促進を図ります。

取組内容

インバウンド客の誘致拡大

富士山静岡空港の就航先であるアジア諸国を中心に、行政や観光協会などと連携して、訪日外国人の動態・市場調査に基づきターゲットを明確にした観光プロモーションや商談会、ファミトリップなどを実施します。

併せて、静岡県や広域連携組織が持つ利点を活用し、ヨーロッパや北米、オセアニア地域をターゲットとした誘致活動を進めます。



ファミトリップ・着物体験

- ▶静岡県や広域連携組織、静岡県国際経済振興会等との連携によるプロモーション活動の推進
- ▶富士山静岡空港の海外就航先におけるプロモーション活動の展開
- ▶海外誘客促進事業費補助金の対象拡大 など

国際大会などを契機とした誘客促進

大成功を収めたラグビーワールドカップや、令和3年開催予定の東京オリンピック・パラリンピック、令和7年開催予定の大阪万国博覧会を契機として、静岡県や本市にゆかりを持った国々を中心に、本市への誘客を図ります。

- ▶海外個人旅行者向けの現地発着コンテンツの開発
- ▶富士山静岡空港の利活用促進と二次交通も含めた広域観光ツアーの研究・開発
- ▶オリンピック・パラリンピック等国際大会関連イベントでのPR など

ファミトリップ：Familiarization Trip の略で、観光地への誘客促進のため、ターゲットとする国の旅行事業者やブロガー、メディアなどに現地を視察してもらったツアーのこと。

国際姉妹都市などとの交流促進

国際姉妹都市などと友好関係を深め、観光、産業、スポーツ、文化など、様々な分野で交流促進を図ります。

- ▶ 姉妹都市（オーストラリアペンリス市・韓国楊州市）との国際交流の推進 など

日本文化を活用した誘客促進

日本独自の文化であり、外国人がクールととらえる日本の魅力（食、伝統文化、アニメなど）を体験できるプログラムを開発します。

- ▶ 海外個人旅行者向けの日本文化体験プログラムの開発
- ▶ 国のクールジャパン戦略と連動した「日本ファン」「ふじえだファン」づくり など

教育旅行の受け入れ

教育旅行を受け入れ、本市の魅力をPRするとともに、学校間交流に進展させることで国際的な親交を深め、将来のスポーツ、文化、産業交流などへの発展に繋がります。

あわせて、静岡県をはじめ、静岡県観光協会、近隣市町・観光協会、旅行・宿泊事業者、学校関係者及び受入先の地域団体などと連携し、教育旅行の受入を推進します。

- ▶ 国際交流における人材育成や留学生の活動支援
- ▶ 教育旅行の受け入れ・調整 など

クールジャパン：「外国人がクールととらえる日本の魅力」のことで、情報発信・海外展開・インバウンド振興のためのブランド戦略のなかで使われている。

基本施策（2）広域連携による誘客推進

① 広域連携による旅行商品開発と情報発信

富士山静岡空港に隣接し、鉄道、高速道路など国内の主要交通アクセスが集中している志太地域の地理的優位性を活かし、国内外からの誘客を促進するため、本市の地域資源「まちの宝」と周辺市町の地域資源を組合せ、広域的に連携した取り組みを行います。

併せて、静岡県と空港周辺市町が連携して、富士山静岡空港を利用した誘客事業に取り組みます。

取組内容

広域回遊観光の推進

静岡ツーリズムビューロー（TSJ）やするが企画観光局、静岡県観光協会や、本市が参画する3市1町広域観光連絡協議会などそれぞれの団体が持つ利点を活用し、観光プロモーションの実施やモデルルートの開発などを行い、広域回遊観光の取組を推進します。

- ▶広域回遊観光のモデルルートの開発促進
- ▶多言語表記の広域ガイドブックやパンフレットの作成
- ▶広域連携組織構成市町のイベントなどへの相互協力 など
- ▶首都圏、中京圏、関西圏、空港就航先の都市などにおける観光プロモーションの実施
- ▶空港ターミナルビルを活用した観光プロモーションの実施
- ▶旅行事業者、教育機関、報道機関など対象団体に応じた効果的なファミトリップの実施
- ▶地域連携DMOなどと連携した市場調査 など

広域連携による富士山静岡空港の利用促進

静岡県と富士山静岡空港(株)、本市が参画する空港周辺地域観光振興研究会（6市2町）と連携し、国内外で観光プロモーションやイベントなどを実施し、空港の利活用を促進します。

- ▶空港就航先の都市などにおける観光プロモーションの実施
- ▶空港施設を活用したイベントの開催 など

藤枝市観光交流基本計画

令和〇年〇月策定

藤枝市商業観光局商業観光課（観光係）

〒426-0026

静岡県藤枝市岡出山2-15-25

TEL 054-643-3078

FAX 054-631-9082

e-mail sho-kan@city.fujieda.shizuoka.jp